

# 源氏物語 光る君誕生

一、「源氏物語」 平安時代半ば（1008年） 物語 五十四帖からなっています。光源氏が亡くなり、舞台が都から宇治へ移った最後の十帖を「宇治十帖」と呼びます。同時代作品に、清少納言『枕草子』があります。左図の／の部分で分かれる三部構成となっています。

## 源氏物語 全巻名

桐壺（きりつぼ）・帝木（ははきぎ）・空蝉（うつせみ）・夕顔・若紫・末摘花（すえつむはな）・紅葉賀（もみじのが）  
花宴（はなのえん）・葵（あおい）・賢木（さかき）・花散里（はなちるさと）・須磨・明石・濱標（みおつくし）・蓬生（よもぎ）  
関屋・絵合（えあわせ）・松風・薄雲・朝顔（あさがお）・少女（おとめ）・玉鬘（たまかすら）・初音・胡蝶（こちよう）・虫  
常夏（とこなつ）・篝火（かがりび）・野分（のわけ）・行幸（みゆき）・藤袴（ふじばかま）・真木柱・梅枝（うめがえ）・藤裏葉（

若菜上・若菜下・柏木・横笛・鈴虫・夕霧・御法（みのり）・幻／

匂宮（におうみや）・紅梅・竹河・橋姫・椎本（しいがもと）・総角（あげまき）・早蕨（さわらび）・宿木・東屋（あずまや）・浮舟  
蜻蛉（かげろう）・手習・夢浮橋。

二、冒頭文 すらすら読め、書けるようになるのが望ましい。

「いづれの御時（おほんとき）にか、女御（にようご）・更衣（かうい） あまた侍（さぶら）ひ給ひけるなかに、いとやむことなき  
きはにはあらぬが、すぐれてときめき給ふありけり。」

御時：ある天皇の御治世 女御・更衣：いすれも天皇の夫人を指す語句。女御は寝室の世話、更衣は着替えの世話をする意味。あまた（数多）：たくさん やむことなし：高貴だ、立派だ、放つておけないほどだ  
きは（際）：分際、身分 ときめく（時めく）：時流に乗つて栄える 龍愛する

※いと――打消＝あまり……ではない。

問 P134 L2 「が」の意味は何か。答え：同格 いとやむことなききはにはあらぬ（あまり高貴な身分ではない人）

=（同じ人のことを言っています。）

すぐれてときめき給ふ（たいそう天皇から寵愛されている人）

※読みと意味に注意すべき語句※

下臍（げらふ） 宮仕（みやづかへ）：宫廷に出仕すること あつしなりゆく（篤しなりゆく）：病気が重篤になる 里がちなり：実家に帰つて過ごすことが多くなる様子 飽かず：満足せず 飽きることなく 物足りなく  
元はばからせ給はず：え+打消＝不可能（天皇は）氣兼ねなされることもおできにならない 上達部（かんだちめ）  
唐土（もろこし）：中国のこと 後見（うしろみ）：後ろ盾になつて助けること。また、その人 契り（ちぎり）：前世からの因縁 大殿籠（おほとのごもる）：天皇がお休みになる やがて：すぐに、そのまま 御局：女官の控え室

三、あつしなりゆき：「篤し」重篤・危篤という言葉が浮かぶと、「病気が重い」と判断しやすいです。

四、この文の直前に「前世にも、御契りや深かりけむ」（前世からの縁も深かつたのであろうか）とあり、帝と桐壺更衣が前世からの深い縁で一緒になり、寵愛されていることが語られ、「その上更に」玉のように美しい男子が生まれたと話題が添加（上乗せ）されている。

また、ここでは「男の子が生まれたこと」が何より大切なことである。女の子が生まれば、そんなに問題はなかった。



五、「一の皇子の女御はおぼし疑へり」（第一皇子を生んだ女御は、第二皇子が皇位に即くのではないかと「私の生んだ第一皇子は皇位に即けないのでないかと、疑つていらっしゃる。」）

## 若紫

※読みと意味に注意すべき語句※

伏籠（ふせご） 烏などもこそ見つくれ：「も十こそ已然形」＝心配だ、嫌だ、不快だ（逃げた雀が鳥などの大きな鳥に見つかつたら大変だ） 乳母（めのと） 後見（うしろみ）：陰で人を助け、世話すること 御髪（みぐし）

二、「いづ方へまかりぬる。」：報告課題③裏面「憶良らは今は罷らむ」の場合は、「高貴な場所から退出する、お暇をする」の意味でしたが、ここでは雀の動作で「行く」の丁寧語として扱います。＝行つてしましましたのか。

三、「ねび／ゆか／む／さま／ゆかしき／人／かな」と分けられますが、「ねび」＝大人びる、成長するという語と、「ゆかしき」＝見たい、知りたい、聞きたいなど、関心があること、が分からないと訳せません。→「大人になつた様子を知りたい人であるなあ」  
ここでは、もう一か所、成人する将来のことを思いやつて、その美しさを想像する場面を抜き出す問題です。

## 明石の君と姫君

※読みと意味に注意すべき語句※

宿世（すくせ）：前世、宿命  
きず・堪えることができなかつた  
ちもなく、無邪気に  
御佩刀（みはかし）  
御車（おんくるま）：当時の貴人の乗り物は牛車（ぎつしや）

えも言ひやらず・えなむ堪へざりける：え十動詞+打消語||最後まで言い切ることがで  
ます。我慢する事が困難な状態、我慢できない何心もなく：どんな気持

教科書 P 143 L 10 の説明文中に出てくる四名に橙円を  
つけてあります。人物関係の把握のため、参考までに。

**指示語に注目して読んでみましょう。**

P 141 L 9 かうこそはおはすらめ：他の高貴な方と同じ  
ようでいらっしゃる、ということを表しています。

L 10 かやうならむ日…こんな（雪の降った）日

P 142 L 11 かくくちをしき身のほど…こんな（私のよう  
な）取るに足りない身分

P 143 L 3 さりや：そうであるなあ（泣いている様子を  
見て、「泣くのは無理もないよなあ」というこ  
と。

五、「かげ」は影。「陰」ではなく、姿・形を表す。

六、「生ひそめし」＝「生えたばかりの小松」を明石の君  
が産んだ姫君にたとえる。

**古典に特有な漢字の読み書き**

訂正

「唐土」は教科書にふりがな付きで出てこない漢  
字。「もろこし」と読み、昔の中国のこと。

### 源氏物語人物相関図

